神奈川県栽培漁業協会

令和2年度事業計画など決議

（公財）神奈川県栽培漁業協会は、5月29日の理事会と6月12日の評議員会を書面による審議に変更し、令和2年度の事業計画などを決議した。

任期満了に伴う役員改選では、理事長に神奈川県漁業協同組合連合会会長の高橋征人氏が新たに就任した。専務理事の今井利為氏は留任となった。

同協会は、（公財）日本釣振興会の放流事業に種苗を供給しているほか、つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE事業にも協力を行っている。

なお、事業計画の概要は以下のとおり。

◆基本方針

当協会は昭和61年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する」ことを目的に設立され、今年で34年目を迎えることになりました。

今年度はマダイ、アワビ、サザエ、トコブシ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合をはじめとする水産団体への供給を行います。さらに、業界の強い要望であるヒラメなどの種苗を入手し放流します。

また、今年度より小網代湾内で実施していたマダイ、クロダイ種苗中間育成事業を協会の陸上施設で実施することになりました。これにより経費等の削減を図り協会の運営の改善に努めていきます。引き続き、当協会の中核事業である種苗生産・放流並びに供給事業を行うことにより神奈川県の水産資源の維持増大を図ります。

そして栽培漁業と当協会の活動についての理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対して、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴えるため普及啓発活動を行います。

当協会の運営については、漁業経営の不振と遊漁者数の減少等から主な収入源である漁業者負担金や遊漁船業者等協力金は減少傾向にあり、大変厳しい状況が続いています。

一方、種苗供給数も不安定ながら県内県外の関係団体等の協力をいただき各種苗の増産を図る努力をします。特に安定したサザエ種苗およびトコブシ種苗の県外水産関係団体等に積極的に配布していきます。

また、事業の熟行については、効率的な協会運営に努めます。

◆種苗放流事業

本年度もマダイ15万尾（全長60㎜／東京湾、三浦半島西岸域、西湘域各5万尾）と、ヒラメ6万尾（全長60㎜／東京湾、三浦半島西岸域、西湘域各2万尾）の種苗を放流する。マダイの種苗生産数は50万尾。

このほか、「普及啓発事業」として、「さいばいニュース」の作成・配布、イベントの参加推進を通じた栽培漁業の普及啓発、マダイ遊漁船の協力により標本船調査を実施する。